資料２

武蔵野市多文化共生推進プラン（仮称）関係者グループディスカッション報告書

１．実施概要

（１）日　時　　令和４年 10 月 13 日（木）18：30～20：45

（２）会　場　　スカイルーム（武蔵野スイングホール）

（３）目　的　　多文化共生推進プラン（仮称）中間まとめのパブリックコメントの実施に合わせ、より本市の実態を踏まえた内容とするため、外国人市民及び日頃外国人市民に接する団体職員等によるグループディスカッションを開催し、中間まとめに対する意見を聴取する。併せて、日常において多文化共生推進の最前線で活躍する参加者に、プランの周知、意識醸成を図るとともに、参加者間の交流を図る。

（４）参加者　　26 名

所　属	人数
武蔵野市国際交流協会（職員、ボランティア）	10
市内日本語・学習支援団体	2
市立小中学校関係者	1
帰国・外国人教育相談室	2
市内大学の留学生支援担当	2
留学生（大学生）	1
市内民間企業 外国人社員生活支援担当	1
介護関係者	2
保育関係者	2
防災関係者	1
外国人市民	2

（５）内　容　　A～E の５グループに分かれて、グループディスカッションを実施。
①参加者自己紹介
②プラン中間のまとめ概要説明
③グループディスカッション１，２
④全体発表

実施風景

２．実施結果

Aグループ

基本目標等	出された意見等（付箋）
(1)誰もが暮らしやすい地域共生社会の形成	・ＭＩＡの存在がありがたい　日本語レッスン（個人） ・ＭＩＡで、子どもを預けて日本語や日本の生活について学べた ・ＭＩＡで活動して自信がついた ・他市に比べて武蔵野市ほど外国人のことを思っている市はないと思う ・外国人市民が参加・主役になれるイベントをもっと企画する ・コミセンのイベントなど ・伝統芸能などのイベント交流 ・音楽などのイベント交流 ・外国人の保護者（お母さん）サポート
(2)生活を支えるコミュニケーション支援と情報発信の強化	・ＭＩＡの医療グループがあって、各言語の病院用問診票を作りました ・ＭＩＡの存在について知らない外国人がまだ多い ・多言語対応のチラシや冊子→日本人にもわかりやすく、使いやすく ・翻訳ツール（スマホなど）の使い方講座 ・役所窓口などにもっと多言語翻訳アプリやポケトークのようなツールを配置する。 ・災害でアプリが使えない時、紙で印刷した翻訳があると便利 ・災害時の多言語コミュニケーション ・就学前や入学前に日本語を学べるアプリやソフトの貸出し等あるといいのでは… ・外国人に偏見や差別を減らすため、市から各業界に指導や workshop をする方が良い。むずかしいと思うけど ・情報発信：「やさしい日本語」で日本人の立場からのやさしい日本語、それとも外国人立場からのやさしい日本語、考えて欲しい ・外国人のための情報発信、市役所からＭＩＡについて、外国人のサポートについて、知らせて欲しい
(3)誰もが安心して地域生活を送るための環境整備	・小さい頃から子ども同士、日本人や外国人関係なし　仲良し！ ・高齢の外国人も増えている。その対応が今後課題だと感じる。 ・高齢者外国人のサポート、特に認知症の方 ・日本語が分からなくても、知り合いがいなくても、相談できることを知らない方も多い ・困っているが、どこにどう相談していいかわからない方もいる

【グループ内ディスカッションの概要】

(1)誰もが暮らしやすい地域共生社会の形成

・ＭＩＡ語学ボランティアの活動は、通訳や翻訳の作業を通じて誰かをサポートすることではあるが、同時に外国人である自分自身が、地域で生活し、コミュニティに属し、活動していく上で、大きな支えとなり、逆に助けられた。

・ＭＩＡが行っている活動を見ても、このような外国人のための話し合いをする機会を設けてくれるのを見ても、武蔵野市はとても外国人に関心を持っている、大切に思っている自治体だと思う。

・外国人が自ら、自分の国を紹介したい、自分の文化を紹介したい、イベントを開催したいと申し出るのは、とても勇気がいることだし、ハードルが高い。どこに行けばいいのかもわからない。求められているのか、求められていないのかわからないので、おせっかいになりたくない気持ちもある。なので、行政や日本人側から、「こういうイベントやってみませんか？」「こういう人を募集しています」と外国人向けにもっと募集や周知をしてくれれば、喜んで協力する。

(2)生活を支えるコミュニケーション支援と情報発信の強化

・日本語の資料とそれを訳した外国語版のものを用意する場合、ただ訳すのではなく、レイアウトなどにも気を配ってほしい。日本語のものと、外国語版のものを並べて、見比べた時に、同じ位置に、同じ内容が書かれていない場合があるが、読みにくいし解りにくい。

・日本人（日本語話者）の立場から見た「やさしい日本語」と、日本語話者ではない人から見た「やさしい日本語」は違う。さらに、外国人の中でもその人の母国語によって、「やさしい」の基準も変わってくる。

Ｂグループ

基本目標等	出された意見等（付箋）
(1)誰もが暮らしやすい地域共生社会の形成	・外国に行って仕事などを経験したことがある人は接触しやすいです。そのような人から意見を聞いてプランに反映出来たらいいと思います。 ・少なくとも子どもから外国人と接触する経験を増やしていくべきです。 ・外国人に関心のある日本人市民を調査（アンケートなどで把握）→発信 ・市民は使いやすいアプリを作ってアンケートなどで市民と会話します。紙ベースだとみんなあまり反応しないと思います。 ・日本人と触れ合う機会が必要 ・イベントに参加する顔ぶれが同じ
(2)生活を支えるコミュニケーション支援と情報発信の強化	・市報に「多文化共生」コーナーをつくる ・（２）①「伝わる」日本語と書かれているがこの文章そのものが分かりづらい。 ・翻訳アプリは役に立つと思います。よく使った方がいいです。 ・イラストがあったらいいかな。 ・日本社会への帰属感 ・武蔵野市民としての・・・ ・小さい頃の話を聞くのが楽しい。 ・留学生時代ＭＩＣボランティアに手厚く支援してもらった ・日本人→総合窓口←外国人 ・日本語／生活面 ・場所・時間 ・進学／就職 ・P16④日本語教育の推進・最後の行、「新たな担い手が参加しやすい仕組みを検討します」とはどういうことですか
(3)誰もが安心して地域生活を送るための環境整備	・発達に偏りのある子どもの支援、保護者の理解 ・国によって計算方法などが違う ・教科学習に必要な日本語能力の習得 ・中学卒業以降に来日した子どもの日本語・就学支援 ・外国人高齢者、書類の判読、病状の聞き取りが難しい ・家庭内のトラブル（言語、法律、専門知識）必要 ・ＤＶ、ヤングケアラー対応の連携

	・自然災害等、日本ならではの知識は必要 ・就学前の子どもやその保護者への支援も考慮して欲しいと思います。 ・個別の案件に関して関連部署が連携できる制度が必要と思います。 ・子どもが帰国した時、帰国・外国で支援してもらった ・支援した子どもが学校で楽しく過ごしている ・支援が必要な親子と支援したい親子のマッチング担当窓口←登板の先生を作る？ ・外国人のいる学校や職場で支援したい人としてもらいたい人をマッチングする ・学校のプリントに定期的に相談できる場所をお知らせする
その他	・アンケート結果を反映して、具体的な方法や対策を示したプランが望ましい。 ・市内で完結できる、便利

【グループ内ディスカッションの概要】

(1)誰もが暮らしやすい地域共生社会の形成

・海外経験のある日本人とは話しやすい。そうした人たちに、「何を意識しているか、何がきっかけか」などを聞いてプランに反映させるといい。

・大人は多文化共生に興味のない人も多いかもしれないが、少なくとも今の子どもたちは外国人と関わる機会を増やしていくべき。

・日本人と外国人が実際に触れ合う機会が必要だが、交流イベントなどを行っても毎回参加する顔ぶれが同じで、興味の無い層にアクセスするのは難しい。

・外国人やその支援に関心のある日本人市民をアンケートなどで把握し、その存在を発信してほしい。

・アンケートなどを行う際は紙ベースではなく使いやすいアプリなどで行った方がよい。

(2)生活を支えるコミュニケーション支援と情報発信の強化

・「伝わる日本語」という記載があるのに、中間まとめ自体が伝わる日本語で作られていない。

・もっとイラストなどを使って分かりやすくした方がよい。

・④の「新たな担い手が参加しやすい仕組み」とはどういうことか分からない。今ある団体の人員についてではなく、新たな NPO などに参加して欲しいということ？

・翻訳アプリはどんどん進化していて便利なので使ったほうがいい。

・市報に「多文化共生」の欄を作りイベント情報や支援団体などをまとめて発信する。日本人の中にも新たに興味を持つ人が出てくるのでは。

・日本の文化などを学べる機会を作って、日本社会への帰属感を持てるようになるといい。

・同様に、国籍ではなく、武蔵野市民としてのプライドも持てるといい。
・市役所などに総合窓口を作り、外国人のことで困った人は、日本人も外国人も問わずみんなそこに相談できると良い。言語や生活情報、進学、就職について教えてもらえると良い。
・MIA のイベントだけでなく、多文化共生イベントを毎週定曜日・時間に開催し市報や総合窓口で周知すれば、興味のある人や困っている人が参加するきっかけになるのでは。
・外国人高齢者のケアの際に、その人の小さい頃の話を聞くのが楽しい。文化の違いが面白い。
・留学生時代に MIC ボランティアに手厚く支援してもらった。川口市に住んでいた他の留学生はそのような支援がなく、武蔵野市でよかったと思った。

(3)誰もが安心して地域生活を送るための環境整備
・外国人のいる職場や学校で支援したい人（海外経験がある人などが多い？）と支援が必要な人のマッチングができるといい。教員や他の保護者、同僚は忙しそうで、軽い悩みなどを聞くのにためらってしまうため、相談してもいい人が分かるようになっていると嬉しい。
・学期はじめなどは書類が多く見逃してしまうこともあるので、転入時や 4 月だけでなく定期的に相談できる場所の情報などをプリントに載せてほしい。
・自然災害など日本ならではの知識を身に付けてもらう機会は必要だと思う。
・学齢期だけではなく、就学前の子どもや保護者への支援についても記載してほしい。
・個別の案件に関して関連部署が連携できる制度や仕組みが必要だと思う。
・発達に偏りのある子どもの支援。保護者の理解を得るのが文化的な問題で難しいこともある。ボランティアから見て明らかに発達に問題があると思っても、保護者の出身地ではよくあること、と真剣に受け止めてもらえない。
・学習支援の際、国によって計算方法が違うことがあり大変（割り算の筆算が上下逆など）。
・DV、ヤングケアラー対応の連携が難しい。各所と連携して対応する必要がある。

■プラン全体について、その他
・耳ざわりの良い言葉ばかりで、せっかくとったアンケート結果の数字などが活用されておらず、具体的な施策について示したプランが欲しい。
・武蔵野市は生活に必要なことが市内で完結できる。便利。

Cグループ

基本目標等	出された意見等（付箋）
(1)誰もが暮らしやすい地域共生社会の形成	・仕事に就きたい外国人の方が多い ・外国人に接して世界がすごく広がった ・お母さんが外国人で子どもがいじめられないか心配だった ・サポートしてくれる人が多い市 ・サポートしてくれる人が多い市ということが知られていない ・もっとＭＩＡのことを知って欲しい ・日本人と外国人は交流できる、一緒に活動できるスペースや機会を作るのが大事 ・外国人を市のしせいにできる限り巻き込むのが大事 ・外国人の意見を聞くのが大事 ・子どもたちに向けたプログラム ・日本の法律・ルール、外国人の子どもにもわかりやすいように伝えて欲しい ・発達遅れた子どものサポート
(2)生活を支えるコミュニケーション支援と情報発信の強化	・武蔵野市は制度が整っている　手続きしやすい ・市役所の窓口対応親切 ・文章短く切った方がいい ・行政の電話、専門用語、ていねい語がわからない ・母：子どものことを相談したくても言葉が不安で窓口に行けない ・記入例が日本語仕様 ・書類・英語化して欲しい ・申請書類・通知が日本語で分からない ・市役所に中国語が出来る専属職員を１人いた方がよい ・子ども教育／学校での日本語サポート時間もっとしてほしい ・日本語習得の場をどう考えるか？ ・教育／市立小中学校で本当に外国の日本語が分からない子が学べるのか？具体的な方法は？発達に遅れがある場合の対応は？ ・スマホの活用でどれくらい多言語でできるか？ ・翻訳ソフトの有効性はどれくらい？ ・「ここで交流できるヨ」ママ友パパ友のネットワークづくり（情報発信） ・配偶者が言葉が出来なくて大変だった ・書類、申請書など多言語化 ・相談できずおうちにいる方へのアプローチ

	・日本語学習はボランティアの力に頼るべきなのか。行政が責任をもってするべき
(3)誰もが安心して地域生活を送るための環境整備	・子育て／ママ友がサポートしてくれた ・子育ては日本語ができても難しい ・日本のルール、法律を学ぶのが難しい ・防災、災害時の対応／有事の際、日本人と同じサポートが受けられるか？言語の問題で必要な情報の伝達が遅れないか？会社や友人のサポートが必要か？ ・現在もあるサービスをもっと発信していく ・日本は文字が多い、もっと絵が欲しい ・市の窓口で外国人でもわかる児童法の解説文を配った方がよい ・高齢化する外国人市民への対応 ・緊急アラート外国語サポートが欲しい
その他	・プランは賛同、実際にアクションにどうおとすか？ ・会社・団体・行政・学校の（ムリのない）連携… ・ボランティアと行政の役割分担、得意分野を発揮しあう ・コラボレーションの機会の創出 ・窓口の多元化 ・様々な窓口で情報を入手できるよう機関同士の連携 ・推進プランは誰が読むことを想定して書かれるのか？ ・誰が読むプランなのか。誰をターゲットにしているのか。 ・文字でなく👪イラスト活用！ ・多文化共生の意識のない人たちにも理解してもらえるような工夫、イラストとかイメージとか。 ・できるだけ字を少なく絵などでわかりやすく ・多文化共生になじみのない人たちにも読んでわかってもらえるプランに ・文字の情報が多すぎて頭に入って来ない。まちの姿の絵とかイメージしやすいものを

【グループ内ディスカッションの概要】

(1)誰もが暮らしやすい地域共生社会の形成

・武蔵野市は外国人をサポートしてくれる人が多いと思うが、そのことが知られていない。

・もっとＭＩＡのことを知ってもらいたい。

・多文化共生を進めていくためには、外国人の意見を聞くのが大事であり、市政にできるだけ巻き込んでいくべき。そのためにも、日本人と外国人が交流でき、一緒に活動でき

る場所や機会を作るのが大事だ。

(2)生活を支えるコミュニケーション支援と情報発信の強化

・武蔵野市は制度が整っていて、市役所の窓口での対応も親切で、手続きしやすい。
・市役所の書類の記入例が日本語で、どう書けばいいかわからず戸惑う人が多い。
・申請書類や通知などの日本語が読めず、重要性がわからなくて捨ててしまったりする。多言語対応が必要ではないか。
・子どものことを相談したくても言葉が通じるか不安で窓口に行きづらいという声があった。
・日本の電話対応は敬語が多い。外国人にはわかりにくい。
・ＭＩＡで行っている日本語教室は、人間関係の構築に力点を置いた、ボランティアによる活動。日本語学習の場は行政が責任を持って用意するべき。
・市内の外国人比率をみると中国人の割合が大きい。市役所に中国語ができる職員を１名置いたほうがいい。
・今あるサービスをわかりやすいように発信していくのも大事。

(3)誰もが安心して地域生活を送るための環境整備

・日本は文字が多い。他の国では街中の標識も、文章よりも絵を使っている。
・仕事で来日している場合、本人は職場で過ごす時間が長く、日本語も話せたりするが、家族はそういった機会がなく、日本語がわからない中での生活になる。わたしの便利帳の英語版が市のホームページで公開されているが、ウェブ公開だけでなく冊子を配布してほしい。
・発達の遅れがある子の場合、日本語教育と学習支援の両方を行うことになり、親の金銭的な負担も大きい。自治体のサポートが得られないか。
・たとえ日本語ができたとしても、子育てはそれ自体が難しい。周りの友だちがサポートしてくれて助かった。ママ友・パパ友のネットワークづくりや、交流機会について発信があるとよい。
・災害時の対応について、最近は北朝鮮のミサイル発射についてのニュースが多く、不安に思っている人が多い。そうした緊急の情報は日本人と同じタイミングで提供され、サポートが受けられるようになっているのか。情報の伝達が遅れるようなことはないのか。遅れないように会社や友人のサポートが必要か。
・日本語がわかっても、日本のルールや法律を学ぶのは難しいのでサポートが必要。
・外国人が自分の子どもに厳しく接したときに、虐待だと思われてしまったという話を聞いたことがある。日本の子どもの法律について、市の窓口で外国人でもわかる解説文を配ったほうがよい。
・外国人市民が定住するようになって、高齢化が進んでいる。高齢化に伴う対応も必要。

■プラン全体について、その他

・誰が読むことを想定して書かれている文章なのか。
・ふりがなが振られているが、逆に読みにくい。
・一つの文章がながい。短く切って読みやすくするべき。
・外国人は読めない、読んでもわからないと思う。
・文字の情報が多すぎて頭に入ってこない。できるだけ字を少なく、イラストを活用してわかりやすく表現するべき。
・多文化共生になじみのない人たちや関心のない人たちにも理解してもらえるような工夫をするべき。
・ＳＤＧｓのロゴやアイコンのように、パッと見てわかるようなもので表現できるといい。
・これをやったらこういうまちになる、ということがわかるようなイラストがあるといい。
・プランには賛同。具体的なアクションにどう落とし込んでいくか。
・会社、団体、行政、学校などが無理なくできることを連携しながらやっていくと、こういうプランは実現しやすいのではないか。
・ボランティアと行政の役割を分担したうえで、お互いが得意分野を発揮できるといい。
・団体間の連携、コラボレーションの機会ができるといい。
・様々な窓口で情報を入手できるよう、機関同士が連携していくことも大事。

Dグループ

基本目標等	出された意見等（付箋）
(1)誰もが暮らしやすい地域共生社会の形成	・(自分の子どもが) 自分が差別されるのではないかと心配 ・外国人市民が活躍できる機会を提供 ・偏見＆差別の解消 ・多文化共生の定義・武蔵野モデルとして「国籍民族だけでなく、障害を持つ人、ＬＧＢＴなどのジェンダー、年齢などの違いを・・・地域社会の構成員として共に幸せに生きること。多文化の意味をもっと深く考えて欲しい ・プランを見ると、全体的に日本人が外国人に支援又は〇〇してあげるという感じがする 　→外国人の力、能力を生かせるプランが必要 　→自信・喜び・能力を認めて共に生きるのが共生!!彼らが活躍できる場・事を増やす ・学生・社会人など外国人市民同士が気軽に交流できる場があるとよい ・多文化共生→外国人だけでなく→障害者、ジェンダーなども含まれる分野ではないか。 ・学生と社会人では異なることを注意しなければいけない ・留学生なのか、生活しているのか、立場が違えば求めることがちがう ・日本に来たいと思っている人が来れるように整備するべき
(2)生活を支えるコミュニケーション支援と情報発信の強化	・ＭＩＡあるので、外国人過ごしやすいのでは ・武蔵野市過ごしやすい（人口が多すぎないし何でもそろうので） ・ＭＩＡについてなどの活動の輪の広がり⇒活動や組織を広めるには… ・ＭＩＡを知ってもらう ・宗教上食べられない給食への対応 ・国の公共機関が冷たい ex.説明なしでパンフレットを渡す ・多言語化・やさしい日本語→あたりまえのこと→情報を伝える手段、ネットの活用 ・外国人の働きかけ、外国人支援課で外国人スタッフを登用。言葉だけでなく母国でない国に暮らす立場は理解できる ・保護者とのやりとりで困ることがある ex.子どもが病気になった時の説明 ・電車の乗り方が分からなかった ・行政だけでなく地域全体が外国籍の人を受け入れる体制作り。銀行、

	病院、警察など社会の基本 ・外国人の方達が自ら学ぶ、年 1 回防災のボランティアを募集→人数が毎年増えていくように ・意思疎通が難しい時がある（ただある程度の語学レベルで、みんな留学に来る） ・仕事上のルールが分からなかった ex.1 分の遅刻で 29 分の働きがないことになってモチベーションが下がった ・日本人への働きかけ、市報や季刊誌に外国人コーナーを設ける、ＭＩＡの活用 ・生活を支えるコミュニケーション支援のところにおいて、一市役所でのサポート以外、家を借りる時の基本的な情報を与えるのもいいと思います！（契約仕方や初期費用など…）←外国人にとってなじみのないこと ・引っ越しの手続き、銀行の手続き、出産、働きやすい環境づくり ・ボディランゲージなどで相手に説明してあげる姿勢があるといいかも ・ＭＩＡの活動内容を分かりやすく紹介する場、ツールがあるとよい ・日本のルールが分からないと生活が大変、基本ルールはしっかり情報として伝える、学生→社会人は在留資格が変わる ・ごみの分別が分からなかった（出身国のルールと違うので） ・宗教上、お守りを持っていたい人への対応 ・保護者へのサポートが必要、外国人が参加できる場が必要 ・子どもの外国人である親への対応の問題（親のことをバカにする等で親が孤立する） ・ゴミ出しなどのルールが分からない→オリエンテーションやっている ・保育園からの手紙の外国語対応が大変 ・友達作りなどの交流の場が必要 ex.保護者会 ・外国人の高齢化問題が心配 ・情報発信の方法 ・子どもは、言語が分からなくてもなじむことが出来る 大人は難しい→子どもが通訳になってくれる
(3)誰もが安心して地域生活を送るための環境整備	・災害時の連携は日ごろの関わり ・サービスの多言語対応⇒日常的に行うには

【グループ内ディスカッションの概要】

(1)誰もが暮らしやすい地域共生社会の形成

・外国人市民が活躍できる場を提供する。

・外国人だからといって支援してもらうばかりではなく、外国人も何かやってみることが必要ではないか。文化を勉強するべき。支援ばかりではなくて、「外国人」ではなく同じ「人」として存在できればいいと思う。

・支援ばかりでなく、外国人の力を認めて、ともに生きるのが共生。外国人が活躍できる場所・事を増やすことが大事。その中で、多言語化・やさしい日本語はあたりまえの世界でないと困る。今更、そのことを謳ってどうする。言語ツールはたくさんあるのだから活用するべき。

・外国人が自ら学ぶ機会があった方がよい。外国の方も能力を活かせるし、自分が役に立っているという自信を持って生きていけると思う。学んだ方が、自分達の能力を活かして、外国人も助けるし、日本人も助けていく、これが共生だと思う。

・在留資格(就職したら資格が変わることなど)にかかる情報提供もしなくてはいけないと思う。

・ビザや就労の関係で、出産を思うようにできない。働きたいと思って日本にきている人が、思うように働けない現状を考えるべき。

・学生と社会人では全然違う。

・来日して日本語を学んで母国に帰った方が、母国で就職できず日本に来たいと思った時に、学校に入る形なら来れても、仕事がなければ来れない。せっかく日本語を学んだ方が、日本に来たいと思ったのに日本に来れないのはおかしい。ホームカミングイヤーを実施したらいいのではないか。

(2)生活を支えるコミュニケーション支援と情報発信の強化

・留学生は日本語のベースができた状態で入学するため、困りごとは多くないが、意思疎通や生活面(ごみ出しのルールが分からない)での困りごとはあるので、オリエンテーション等で日本の生活について事前に教えている。

・MIA と連携をとっている。コロナ前であれば、色々なプログラムに参加していた。外国人は暮らしやすいのでは。

・日本に来たばかりの頃、ごみの分別は自分の国にないものなので分からなかった。電車の乗り方が分からなかった。慣れてきたら、電車も便利だと感じている。武蔵野市は、人が多すぎないし、何でもそろうので良いと思う。

・大学院生が銀行口座開設に苦戦した。英語のフォーマット等がなかったので。このようなことから、行政だけでなく、地域全体で外国籍の方を受け入れる体制づくりをするのが大事ではないか。特に、病院・銀行・警察。

・外国人向けのパンフレットがあっても、内容について説明してもらえない。
・子どもは語学習得も早いし馴染むのも早い。しかし、大人はそれが難しい。保育園職員も外国語が堪能ではないので、保護者とのやりとりで困ることがある。子どもが保護者との通訳をしてくれることもある。宗教上、給食の配慮が必要な場面があった。宗教上、身に付けていたいものがある方への対応をしたことがあった。手紙を英訳したりできないので、悩むことがある。
・日本の方は親切で優しいので心地良いが、公共機関が冷たい感じがする。資料をくれる時も、説明がない。初めて来た人は、資料をもらうだけでは分からないので、説明してほしい。
・自分の子どもが住みやすくなるといいと思う。
・MIA を知ってもらうべき。
・MIA について具体的に知らない。なので、周知することが必要ではないか。
・行政サービスの多言語対応はできあがっているかもしれないが、それだけではなく、日常の中で多言語対応が必要だと思う。プランに多言語支援すると書いてあるが、どのように支援するのか。システマチックな翻訳媒体があると良いと思う。
・外国人スタッフを登用すべき。これは、言葉の面だけでなく、外国で暮らすことが分かる立場の人と話すことができるから。
・市報に外国人コーナーを設けた方がいいのでは。
・家を契約する時、外国人は拒否されてしまうことがある。
・留学生は留学生同士の交流にとどまってしまうので、武蔵野市に住む外国人市民は学生も社会人も気軽に交流できるとよい。日本での就職を希望している方への情報提供を地域でできると良いのではないか。
・MIA の活動を分かりやすく紹介する場やツールがあると良い。学生が使用する SNS を活用する等した方がよいのではないか。
・基本ルールを伝えることも大事だし、有事の際の情報提供も大事。

(3)誰もが安心して地域生活を送るための環境整備
・災害ということに特化せずに、日頃から関係性を築くことが大事ではないか。そうすれば、災害時にも役に立つ。

Eグループ

基本目標等	出された意見等（付箋）
(1)誰もが暮らしやすい地域共生社会の形成	・イスラム教、ねんど（の箱）にブタの絵、プール・給食、お祈りなど、文化の折り合いをつけるのが難しい、コンサルがいるとよい ・外国人が増えてきて人手不足な時がある、ボランティア等安定させる方法が必要 ・武蔵野は外国人への受け入れ体制がよい、各機関が連携できている ・学習指導要領がある日本の教育制度 ・〇〇教育、50 以上、授業日 200 日 ・多文化共生主体の広がり ・いろいろな地域活動・ボランティア ・バイアス・偏見の教育 ・お祭りなど文化紹介だけでなく普段の生活 ・理想的 ・ボランティアに頼り過ぎない
(2)生活を支えるコミュニケーション支援と情報発信の強化	・最初に言葉ができず壁があった、特に方言が難しかった ・コロナで留学生が人とのつながりがない ・ごみの分別が難しくて困った ・学校のプリント？お手紙気を使ってひらがなで書いてくれるが、ひらがなばかりでは分からない ・子どもの学校の先生が日本語をちゃんと教えてくれない ・武蔵野市／保護者とオンラインで語学ができる人とつないで助け合うなどすごい ・受け入れた学校支援するシステム ・数年後の自立、数十年度の社会変化 ・「やさしい日本語」テキストブック、ジャストインタイムのシステム作り ・病院、Byoin、クリニック、医療機関、診療所、メディカルセンター ・ＭＩＡの広報 ・発信するもの日本語だけ＝日本語が分かる人だけ“多くの人を対象だよ” ・娘がケベック、フランス語のレベル１～８それぞれに対応 ・外国人への投資をすれば返ってくる、あらゆる日本語レベルの人にきちんと支援できれば返ってくる社会 ・イラストの活用 ・お店や会社でもフリガナかやさしい日本語

(3)誰もが安心して地域生活を送るための環境整備	・市民活動が盛ん、コンパクトシティ、緑が豊富、武蔵野市は自然が豊富、何でもある、都会なのにゆったり、アクセスがよい、自然が豊富 ・災害時情報わかりやすく ・防災、自分の身は自分で守る、知識・情報 ・避難所多言語表示、wifi、ルール ・防災訓練・講座 ・福祉・支援も日本人だけでなく外国人市民の方を対象に考えて欲しい ・日本語教室の支援はありがたい、つながりたい！！家に近い所で日本語を学べる（ＭＩＡ、帰国・外国人ステップルーム、いちご） ・学校につながらなくても日本語を学べる環境を ・コーディネータやコンサルタントなど分かる人、詳しい人、頼れる人が必要
その他	・理想論になっているので具体性がない ・武蔵野は小さく、外国人も 3000 人程度なので対応できる ・もっとＭＩＡのイベントにいちごの部屋に参加しよう！と声かけしたいと思った

【グループ内ディスカッションの概要】

(1)誰もが暮らしやすい地域共生社会の形成

・武蔵野市は子どもたちの受入体制が整っている。各機関や団体の連携がとれているので情報がちゃんと伝わりやすい。

・学習指導要領では 1 年 200 日で行わなければならない〇〇学習が 50 もあるので、学校においてそこへさらに多文化共生に関わる教育を入れ込むのは時間的に難しい。方法を考える必要がある。

(2)生活を支えるコミュニケーション支援と情報発信の強化

・やさしい日本語のテキストなどを学校や各部署に配布したりするとよいが、配るタイミングを考えないと片隅に置かれ、ただ忘れ去られてしまう。

・いろんな手続きにせよ、災害時にせよ、とにかく行政用語が難しくて分かりにくい。外国人にとっても日本人にとっても分かりやすい言葉を使うべき。

・最初は言葉ができず壁があった。日本語学校では標準語を習うので、三重県に居た時は特に方言が難しかった。

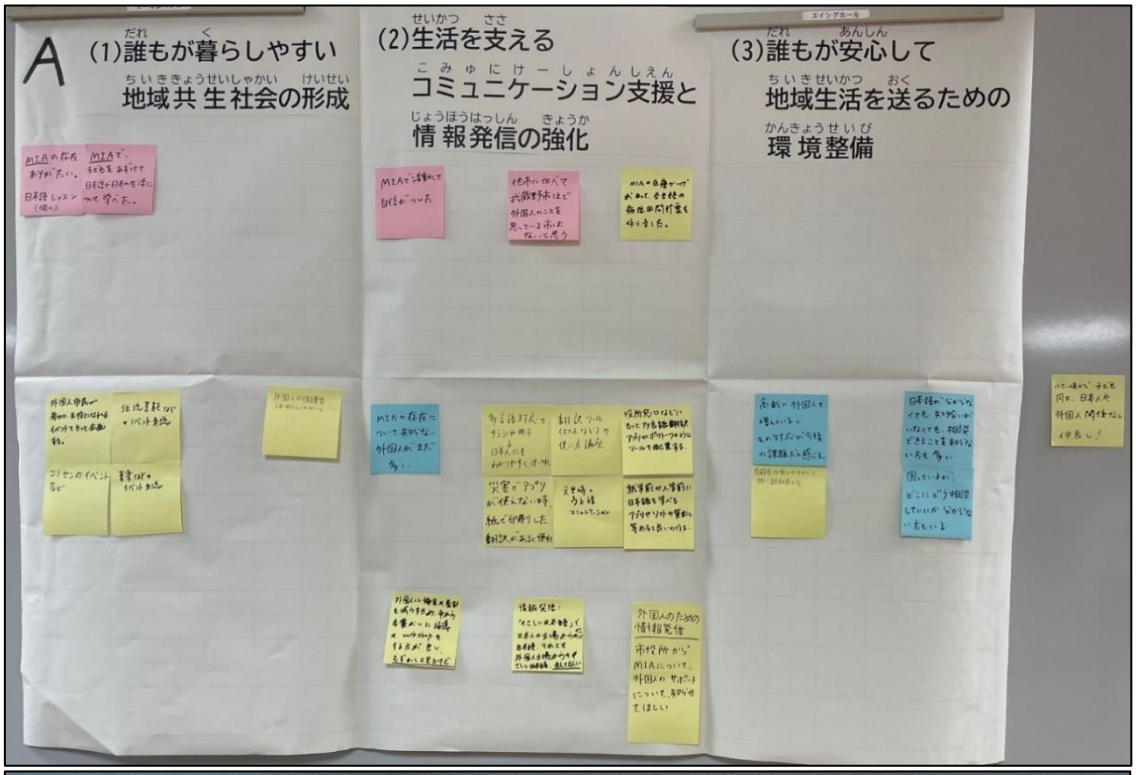
・市役所などのスタッフの心構えを変えることは大切。

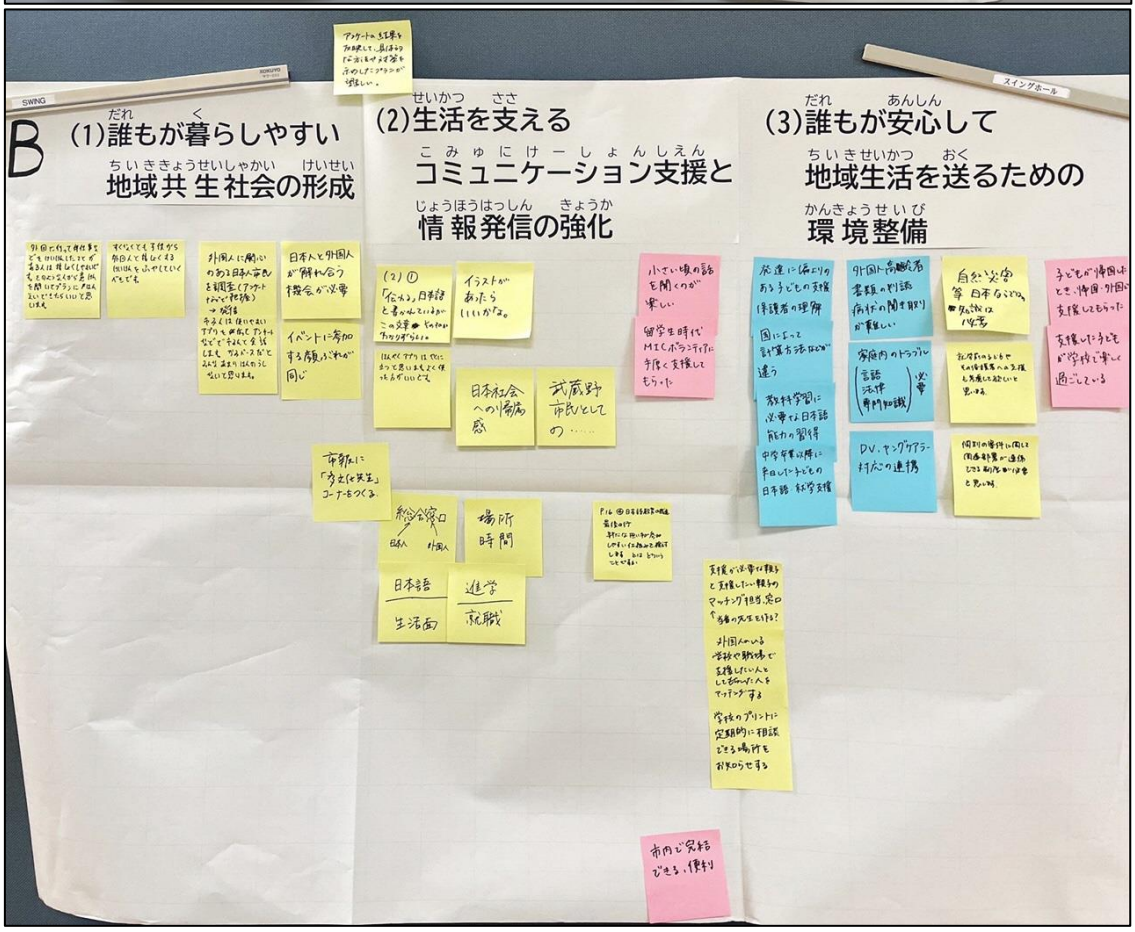
・日本語は同じものを指す言葉がたくさんあり、使い分けが分からない。特に、医療に関してはただでさえ難しいのに、病院、クリニック、診療所、医療機関、メディカルセンターな

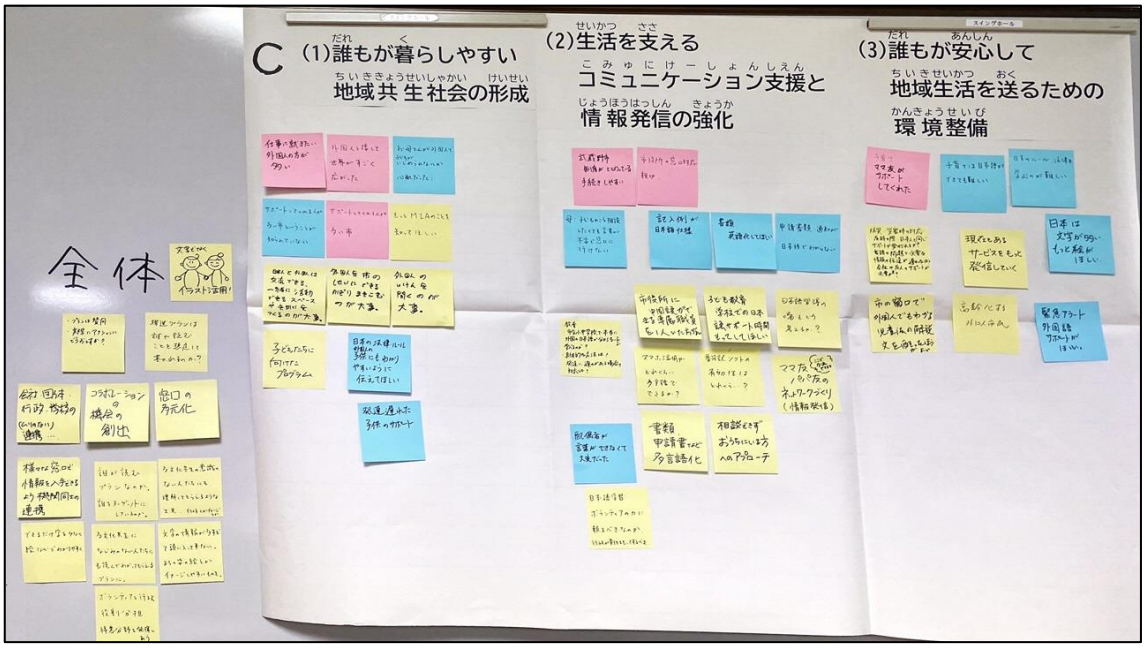
どいろいろな言葉があり、明確な使い分けがなく、同じ部類でも様々な名前がついているのでどこに行けばいいのか分かりにくい。
・発信されるものが日本語だけだと日本語が分かる人だけが対象になり、それ以外の人は疎外されてしまう。多くの人が対象になるべき。
・娘がケベックのサマースクールに参加したが、フランス語のレベル１～８に対応してもらえるシステムがあった。
・あらゆる日本語レベルの人にきちんと支援できれば必ず社会に還元される
・MIA などが行っている文化紹介もとてもよいが、実際に日常生活に役立つ、生活の中での文化の違いをお互いに知ったりギャップを埋める方法などを知れる機会もあればいい。
・市役所に MIA の紹介ブースや出張所があるといいのでは。

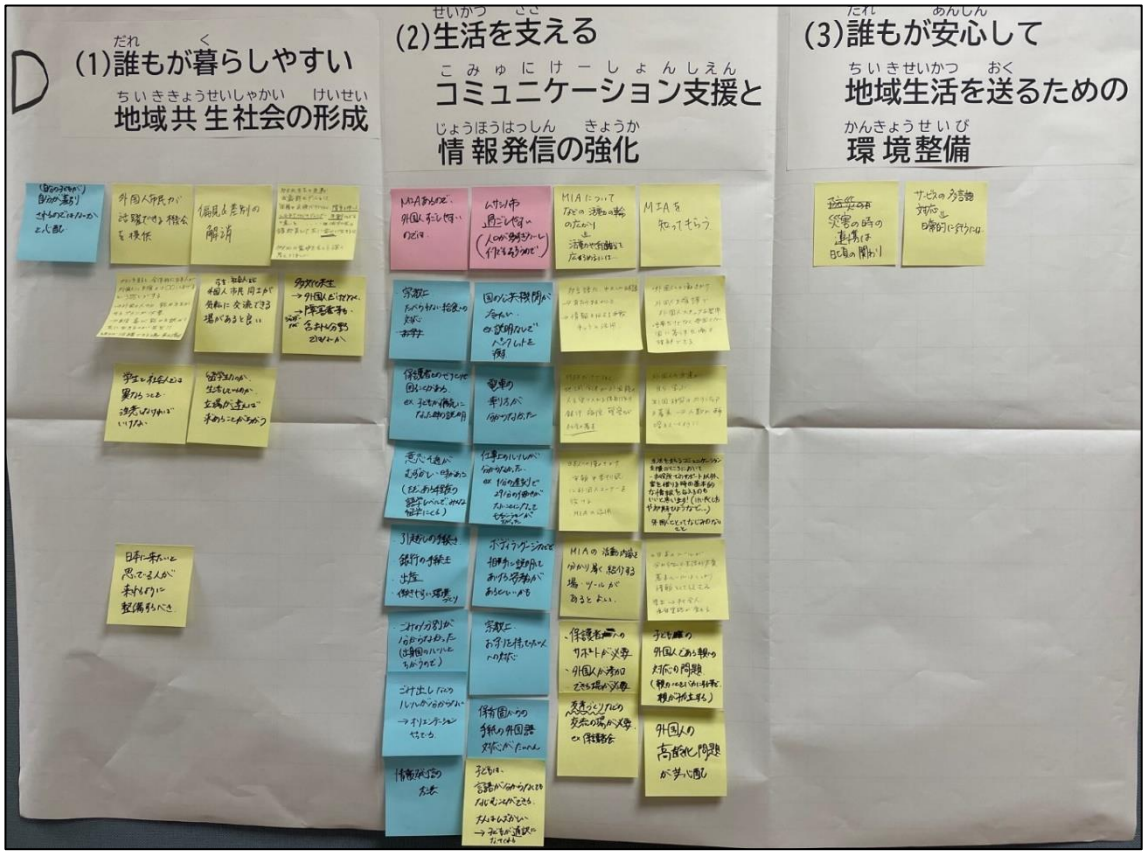
(3)誰もが安心して地域生活を送るための環境整備
・MIA もいちごの部屋も帰国・外国人教育相談室も、小中学生が対象で、高校生は対象ではない。日本語ができない高校生の受け皿がない。杉並フリースクールなどを紹介している。
・文化的/語学的配慮が必要な、対応が難しい子は、私立を希望していても受け入れられないことが多いので公立で対応している。
・高校生になったらサポートできないので、友達との日常生活や高校生活で困らないようにしてあげることが大事。(例：イスラムの女子が高校生になった時に、友達にマックに誘われたらどうするか、断ったら孤立してしまうかもしれない。友達に「私オレンジジュースしか飲めないけどいい？」と言えるようにアドバイスするなど、宗教や文化と日本の生活の折り合いをつけていく方法を身につけさせてあげたい)
・高校生や、学校へ行っていない子どもをすくえるシステム、日本語教育やサポート体制があるべき。
・防災無線は、日本人でさえよく聞こえずよく分からない。日本人にも外国人にももっと伝わりやすくなるといい。

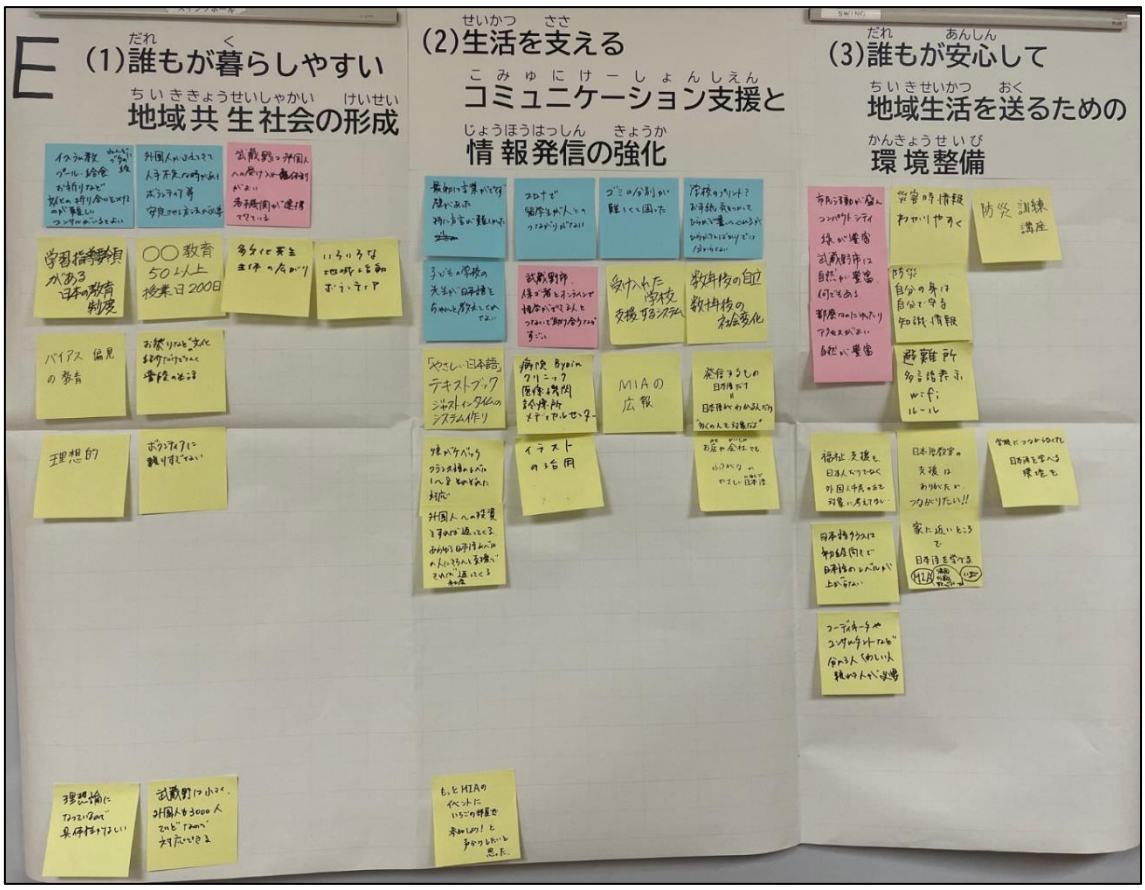
3．資料：グループ模造紙写真






C
(1)誰もが暮らしやすい
地域共生社会の形成
(2)生活を支える
コミュニケーション支援と
情報発信の強化
(3)誰もが安心して
地域生活を送るための
環境整備
全体


D
(1)誰もが暮らしやすい
地域共生社会の形成
(2)生活を支える
コミュニケーション支援と
情報発信の強化
(3)誰もが安心して
地域生活を送るための
環境整備


E
(1)誰もが暮らしやすい
地域共生社会の形成
(2)生活を支える
コミュニケーション支援と
情報発信の強化
(3)誰もが安心して
地域生活を送るための
環境整備